

自 己 評 価 表

愛媛県立小松高等学校

11

(平成29年度)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国際社会に寄与する、徳・知・体の調和のとれたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や想像力を養う。 4 広い視野で、生涯学習社会を生き抜く自己教育力を養う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	平日に一定時間機に向かう習慣が定着するような課題の出し方について、各教科で研究・工夫し、1日120分以上の家庭学習時間を目指す。	C	考查発表期間の全校平均学習時間は3時間弱(160分)あるが、平日は1時間強(77分)で目標に届かなかった。	家庭で一定時間機に向かわなければできないような課題を出すよう各教科で研究・工夫する。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、授業の満足度や学習意欲を高め、教員の授業力向上に活用する。	A	年間7回の研究授業及び授業研究会が教員の授業力向上に役立った。生徒による授業評価アンケートの全教科平均は、1・2学期とも4.6(5点満点)と好結果であった。	授業評価や公開授業から日常の授業への評価を知ることにより、教科指導力を高め、生徒の満足度が更に高まるよう、教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させたい。
		1年間を通した計画的な研修となるよう、教科会や学年会とも連携し授業力を高める。	A	教科・学年の協力により校内授業研修・ホームルーム授業研修・相互参観授業が計画通りに行われた。	教科内・学年内及び教科間・学年間での情報交換や研究を発展させて授業力を高める。
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ70人以上を目標に個別指導等を徹底し、取得奨励に努める。	B	被服・食物検定1級に61名が合格することができた。普通科I類型6名が商業各種検定に合格し、3種目1級にも1名合格できた。	1級取得への意識を更に高め、1級合格者を増やしていきたい。特に商業関係は、簿記、電卓、ビジネス文書の3種目に絞り込み、補習や個別指導等の徹底により、更に1級取得者を増やしたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	家庭との連携を密にし、兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導により、出席率98%以上を維持する。	A	年間出席率は98.6%(2学期末現在)で目標を達成できている。	家庭との連携をいっそう密にし、長期欠席等の兆候を早めに把握できるようにする。
		5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日60日以上を目指す。	B	遅刻ゼロの日44日。生徒の多様化に伴い一部遅刻が多い生徒がいるが、ほとんどの生徒が5分前登校ができている。	遅刻を繰り返す生徒について理解を深め、個に応じた指導を学年団・担任を中心に行っていく。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間3回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。	A	年間3回の面接週間を持った。学年団を中心として、担任が適時・適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	次年度についても、担任・学年団を中心として現状維持に努め、より生徒との関わりを深めていく。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化について主体的・積極的に取り組む態度と奉仕の心を育てる。	A	今年度は、創立110周年ということもあり、生徒・教職員とも環境美化への意識が高く、真剣に取り組む様子がみられた。	清掃時間への放送での呼びかけ等も充実させながら、環境美化に対する意識を更に高めさせたい。
	ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行い、ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	ヘルメットの着用や交通マナーに対する指摘は減ってはきているがゼロではない。	継続して、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を粘り強く行う。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路保障	早期から進路意識を高める機会を充実させ、多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーションなど）に対応した計画的な進路指導により、希望進路達成率100%を目指す。	B	個別に応じた丁寧な指導により、成果を挙げている。 進学達成率は95%、就職内定率は100%。	新学力観を意識した多様な入試（論述型、小論文、集団討論、プレゼンテーションなど）に対応した計画的な指導が必要である。
	進路指導力の向上	早期から計画的な進路指導を行い、多くの教員が業者や大学等の説明会などに参加し、職員会議等での報告会を実施して、情報を学校全体で共有する。	A	様々な進学説明会や企業見学などに、進路課以外の教員も積極的に参加し、報告会を実施することで、情報収集や学校全体の進路指導力の向上に努めた。	変化する情勢を踏まえ、適切な進路指導ができるように、多くの教員に大学等や企業の説明会などに参加してもらい、職員会議等での報告会を実施して、学校全体で共有する。
	キャリア教育の推進	インターンシップの事前指導や取組を活かし、生徒が自ら考え、行動する力を育てる。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など職業理解の機会を増やす。	A	インターンシップでは、社会人として必要な姿勢を感じることができ、意識や行動に変化がみられる。実習を通して自分の適性を見つめ、職業理解を深めることができた。	自分の進路に繋がるインターンシップができるように事前指導を充実させる。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など職業理解の機会を増やす。
特別活動	部活動の充実	各部活動において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合体育大会において、100人以上の参加を目指す。	B	県総体に95名参加し、4年ぶりに男子サッカー部が県総体に出場し、参加人数は増えた。しかし、四国大会に出場したのは、男子バレー部のみであった。	各部の部員確保が厳しい状況ではあるが、各活動において、計画的により充実した指導を継続する。
		各部活動において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭において、4つ以上の部と70人以上の参加を目指す。	C	県高文祭、各種コンテスト等への参加は、3部24名と昨年より大幅に減少した。	文化部への積極的加入を促すため、情報発信に努める。各種大会への積極的参加を促す。
	生徒会活動・家庭クラブ活動委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。	B	家庭クラブ委員会を中心とし、1円募金やエコキャップ運動など、家庭クラブ活動を月1回以上実施することができた。	家庭クラブ役員を中心に、活動人数を更に増やし、より積極的な活動を行う。
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。	A	地域清掃活動等を通して、豊かな人間性の育成を目指すことができた。生徒会役員の自主的な活動により、生徒への各種ボランティア活動案内を含め、生徒全体の参加意識を高めることができた。	生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高め、次年度も継続して活動していきたい。
人権・同和教育	人権・同和教育の積極的推進	人権委員による校内研修会や人権・同和教育のホームルーム活動など年に複数回、人権・同和教育学習を実施する。	B	人権委員による現地学習会や福祉施設との交流を通して、人権委員の活動の活性化を図ることができた。	人権委員の活動状況の適切な報告に努めるとともに、各生徒が取り組む人権作品の質を高めるよう工夫する。
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「ライフデザインだより」や「学校案内」等を通して、タイムリーな情報発信を行ったり、ホームページを通して親しみやすい開かれた学校づくりに努める。	B	「ライフデザインだより」の毎月1回の発行により、市内中学校に情報を発信することができたが、ホームページへの情報提供が不十分だった。	引き続きホームページのタイムリーで魅力的な情報発信と、分かりやすく親しみやすい「ライフデザインだより」等の発行に努める。
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	外部団体やPTAに協力を仰ぎながら、地域人材を活用した体験授業や竹林整備等の体験学習を実施し、特色ある学校づくりに努める。	B	地域人材を活用した授業により専門性を高め、地域に開かれた特色ある学校づくりに努めることができた。	地域人材から学んだことを地域に還元できるような取組を行いたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。